



シルボンヌさくら

2023 冬号

発行日 2023年12月12日
編集・発行
佐倉市シルバー人材センター
女性部会
佐倉市シルバー人材センター
Tel 043-486-5482

来年もよろしくお願ひします

シルボンヌさくら紙を発行するにあたり新年号やお雛様特集発行以来ずいぶん空きましたことをお詫びいたします。この一年間、様々な経験を積み重ねてきました。特に、夏の異常な暑さは私たちの活動に大きな影響を与えました。その暑さが私たちの団結力を深め、新たな視点をもたらしました。



シルバー人材センターの一員として、私たちは女性部会での活動を通じて多くの学びと成長を得ることができました。夏の経験は私たちのチームワークを強化し、

シルボンヌさくら 委員一同

女性専用入会説明会
女性を対象とした入会説明会を年四回実行しております。
今年の夏はとて暑く女性専用入会説明会も説明会に来てくださる方はそう多くはありませんでした。
色々対策を考えて会員の皆さんにチラシを配布したりまた各公共施設に置いてもらったりしたのですが、なかなか良い成果は得られない状態です。
じゃあ、どうしたらいいか思案中ですが、
なかなか難しいです。
でも会員の皆さんへ一つだけお願いです。
お知り合いの方の紹介です。いまままでに、これが一番多くとても効果がありました。以前、ある理事が千人の会員が一人紹介したら千人になるとおっしゃったことがあります。一番頼りになるのは会員の皆さんひとりひとりです。
どうぞ、ご理解、ご協力の程、宜しくお願ひいたします。



認知症サポーター養成講座開催

認知症サポーター養成講座は、佐倉市シルバー人材センターで令和五年九月二七日に当シルバー人材センター内のワークプラザで開催されました。この講座は、認知症患者およびその家族に対する理解とサポートを提

供することを目的として開催されましたが、講座を受けることで、認知症についての基礎的な知識を得ることが出来ました。講師の方は佐倉市役所高齢者福祉課、キャリアメンメイト講師二名の方に来ていただき、認知症の基礎知識をビデオで紹介されたり、「認知症を学ぶ・地域で支えよう」の教材に則って認知症の定義、症状、進行過程など

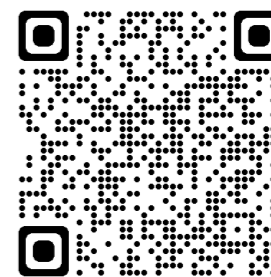
また認知症患者との適切なコミュニケーション手法について、具体的な例を交えながら解説が行われたり認知症患者の異常行動に対する理解と、適切な対応策について、ビデオで地域における正しいサポートの情報が提供されました。



女性部会だより（シルボンヌさくら）に、掲載してほしいアイデアがございましたら、どうぞ気軽に申し付けくださいませ。女性部会で検討し、ご期待に沿えるよう頑張ります。

問い合わせ先（輝くシルボンヌ推薦先）掲載申し込み先；Tel 043-486-5482（上原）
メール t.uehara@sakura-sjc.or.jp

編集元 女性部会、シルボンヌさくら
〒287-0292 佐倉市シルバー人材センター
Tel 043-486-5482 Fax: 043-486-5419



この講座を受けてくださった参加者二五名の方々にとって有益な情報と知識を得ることが出来ることと思います。講座を受けることで、認知症についての基礎的な知識が得られ、認知症患者とのコミュニケーションが円滑になり、理解が得られるようになったと思います。シルバー人材センター会員の皆さんが地域の認知症ケアに積極的に貢献し、ご自身の成長と満足度を得ることが出来ることと思います。また地域の認知症サポートセンターとしての役割が強化され地域のコミュニティに貢献する一翼を担うことができると思います。今後もシルバー人材センターでの講座が広がり、多数の会員の皆さんが認知症サポートセンターとしての役割を果たされることを希望いたします。認知症の人への対応は **はつきり やさしく ゆっくり みじかく** そうですね。 **は・や・ゆ・み**で



シルバーフェスタ

シルバーフェスタ 2023 が十月二十九日(日)に御伊勢公園で行われました。私たち女性部会もチャリティバザーを開催いたしました。バザーをと計画したのはいいものを、果たして品物が集まるかどうか?ひよっとしたら全然集まらないかもしれないという不安でいっぱいでしたが、会員の皆様には品物を無料で沢山提供して下さりありがとうございました。



また、当日も協力くださったおかげで寄付金もある程度集めることが出来ましたので、事務局へお願いして福祉団体への寄付を頼みました。皆様の善意とご協力があったからこそ、この取り組みは、私たち女性部会にとって意義深いものでした。会員の皆様の行動そのものが大切なのです。会員の協力により、私たちは地域社会に貢献する行動を起こすことができました。寄付としての金額が大きくなかったとしても、その行動自体が大きな意味を持ちます。皆様の協力と参加が、地域社会への貢献意識を高め、良い変化をもたらす第一歩となったことは間違いありません。本当にありがとうございます。皆様をよろしくお願いいたします。皆様のご協力と参加が、私たちの取り組みをより良い方向へと導いてくれることを期待しております。



七〇歳を過ぎるころから人の名前や物の名前が出てこなくなったりしています。友人たちの『あるある』の言葉に安堵したり不安になったりしています。夫は声を出して読むのはすごくいいらしいよ、特に調になる言葉とかという助言で、そうだと互助会の短歌グループに入ろうということで短歌のサークルに入りました。昔、誰にも見せることなく詠んでいたことがあります。短歌が果たして人の前で通じるかどうか分からないままでした。でもシルバー人材センターの短歌サークルは、同世代の方々との交流の場でもあり、短歌を通じて、言葉でのコミュニケーションに共感を深め、新しい友人や仲間とのつながりを育むことができました。詠むことには四苦八苦していますが、日常の生活に潤いをもたらしたのは確かです。散歩に出ても絶えず頭の中に57577が残りが動かしにくいです。また自然に対する見方も変わってきたように思います。メンバーは、豊かな経験と知識を持っています。短歌サークルでの活動は、その貴重な経験や知識等を短歌を通じて共有し、新たな視点や知識を得る機会となりました。我が家でサークルの皆さんが詠まれた短歌を声を出して読むことでこれは誰の作品?とか読まれた情景を想像するのも楽しいひと時です。

短歌に触れて

輝くシルボンヌ

シルボンヌ Silbonne とは「シルバー (silver)」と「ボンヌ (bonne)」(フランス語で女性の「お手伝い」「親切」「優れた」の意味)を合わせた造語です。

久しぶりの輝くシルボンヌは、木村偵子さんです。佐倉市シルバー人材センターに入会され七年になるそうです。最初の仕事は五時間調理の仕事だったそうです。早朝五時からのお仕事で朝四時起きで頑張っていました。現在は会社の社宅の清掃です。一人での仕事ですがオーナーも奥さまも人柄がよく安心して働いていらっしやいます。



趣味はいろいろやっていらっしやいます着付け手芸と中でもシルバリーの互助会の藤工芸のサークルにも所属されています。作るのが大好きですとうれしそうに話してくださいました。



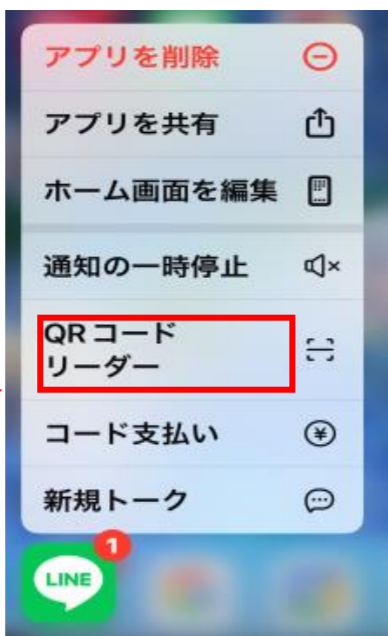
またあるあるではないですが、最近物忘れが多く言葉が出てこないという認知症への不安から白井のイオンの三階にある物忘れ相談に行かれたそうです。相談の結果は加齢からくる老化ということ、いろいろとアドバイスをいただき相談を受けてよかったです最近なるべくスマホに頼らないで必ず筆記すると言われました。話を伺って、とても参考になりました。

Line(ライン)の簡単裏ワザ

スマホでのラインは佐倉市シルバー人材センターでも Line アプリの導入は多く方がされている事と思います。ラインにはいろいろな裏技があります。ここで一つ簡単な裏技を紹介いたします。ラインにはQRコードが付いていますがこれを普通のQRコードを読み込むコードリーダーとして使うこともできます。やってみましょう。 iPhone と Android の操作方法は共通です。



ラインボタンを長押しします



そうしますと右図のようにコードリーダーが出てきます。それをタップしますとコードリーダーとして使うことが出来ます

このページにあるQRコードを読み込んでみてくださいませ